

# 電力市場価格高騰 の原因を探る

2022年5月12日

グリーンピープルズパワー株式会社

代表取締役 竹村英明

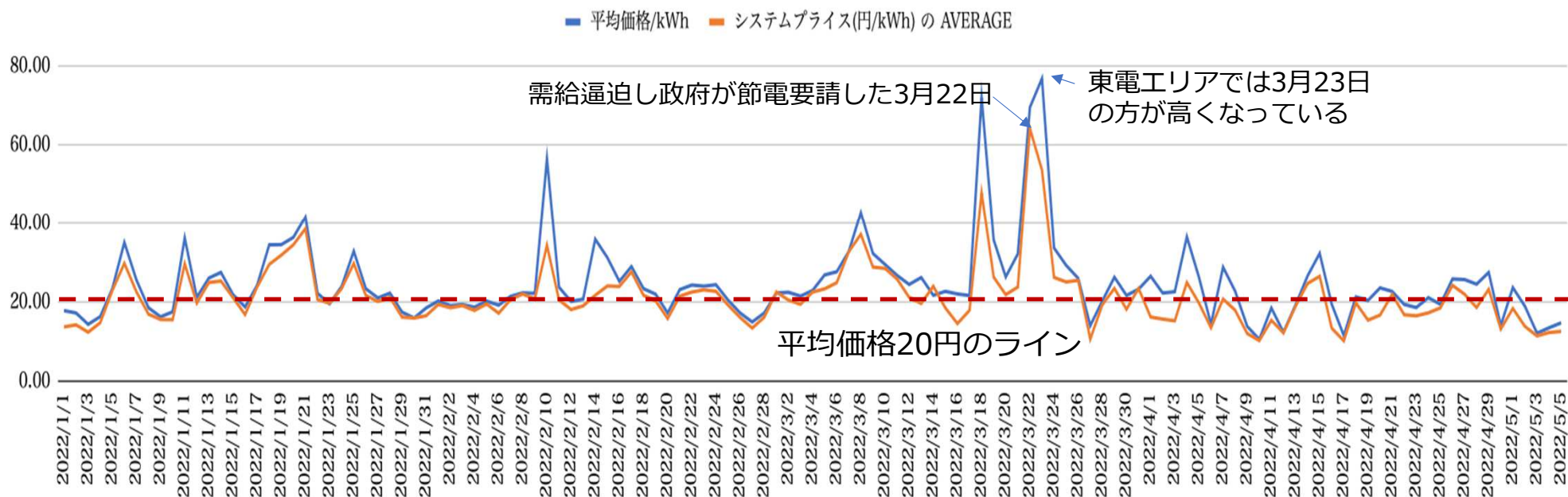
# 目次

- 1、卸電力取引所（電力市場）の低値（ひくね）高騰
- 2、市場高騰と需給逼迫は無関係
- 3、売入札の売り切れ（価格は上昇）
- 4、天然ガスの市場価格で売入札（限界費用の定義替え）
- 5、予想を攪乱するブロック入札
- 6、三つが絶妙に作用して最低価格が上昇

# 1、卸電力取引所（電力市場）の低値（ひくね）高騰

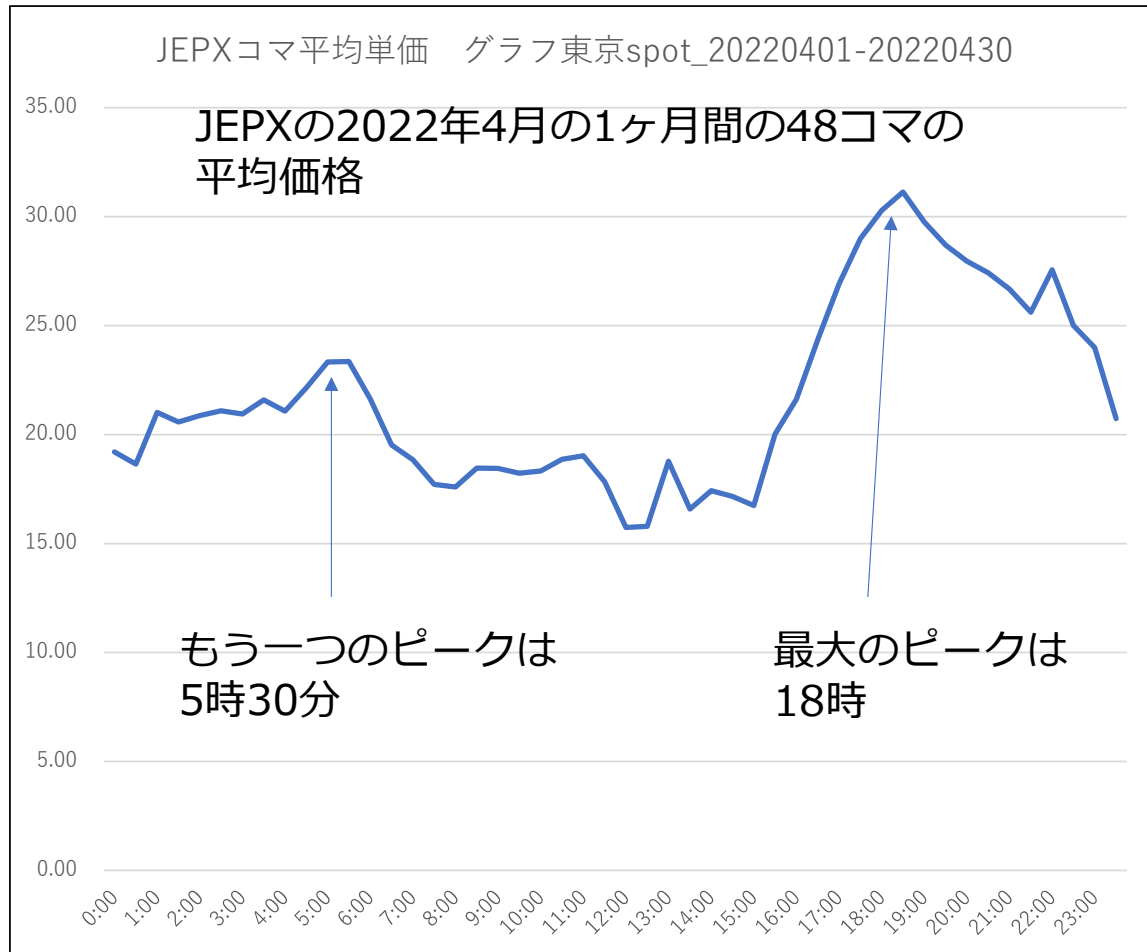
## 2022年1月1日から5月5日までのJEPX市場平均価格

平均価格/kWh と システムプライス(円/kWh) の AVERAGE



作成：グリーンピープルズパワー（株）

## 2、市場高騰と需給逼迫の相関性は少ない



2021年10月から、7ヶ月以上続く市場価格高騰の期間で、需給逼迫は3月22日の1日だけ。  
しかも東電エリアでは、3月23日の方が高い。

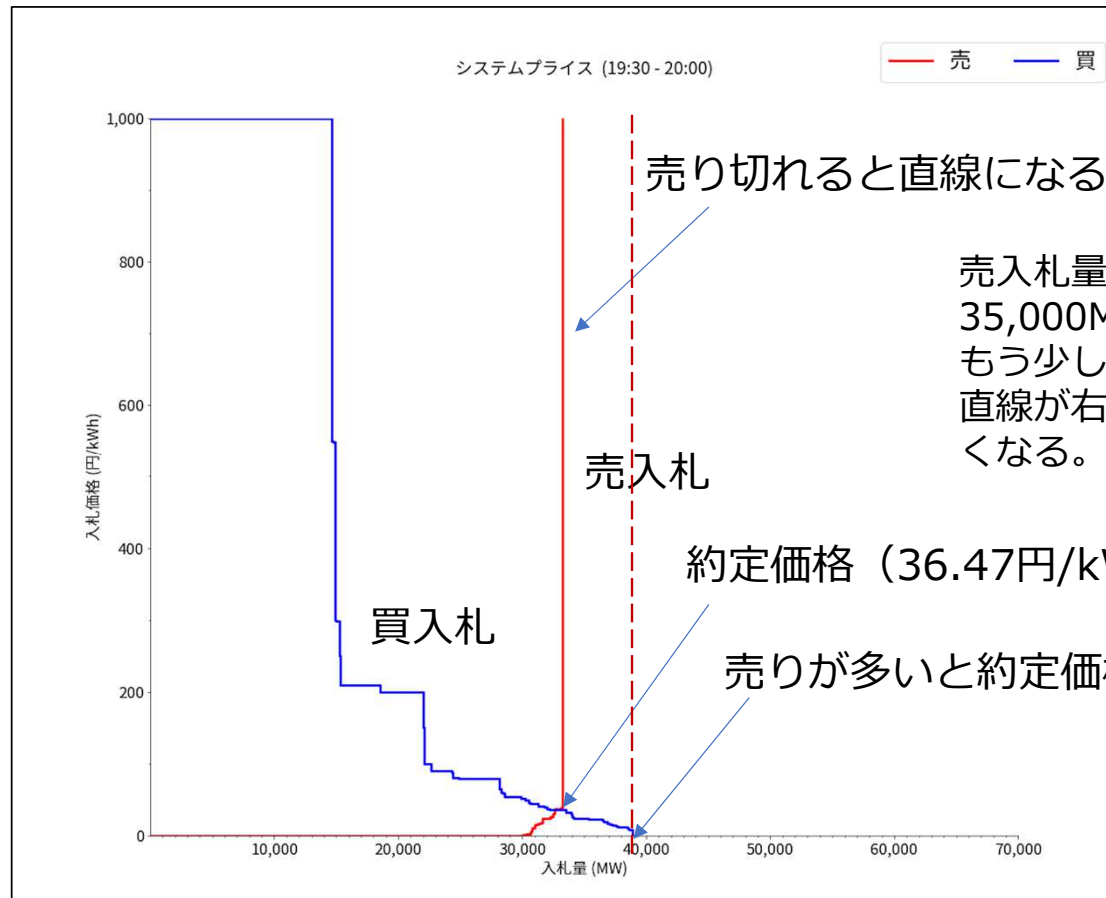
ピークが需要の高い昼間に出ず、早朝と夕方になった。少なくとも早朝には、そんなに電気を使わない時間帯。

需給の関係で価格が上がっているとは思わない。

### 3、売入札の「売り切れ」は価格を上昇させる

2022年  
4月15日（金）  
19時30分から  
20時までの30分  
コマの  
約定カーブ

原理的には  
うちにを減らせば  
価格は上がる。

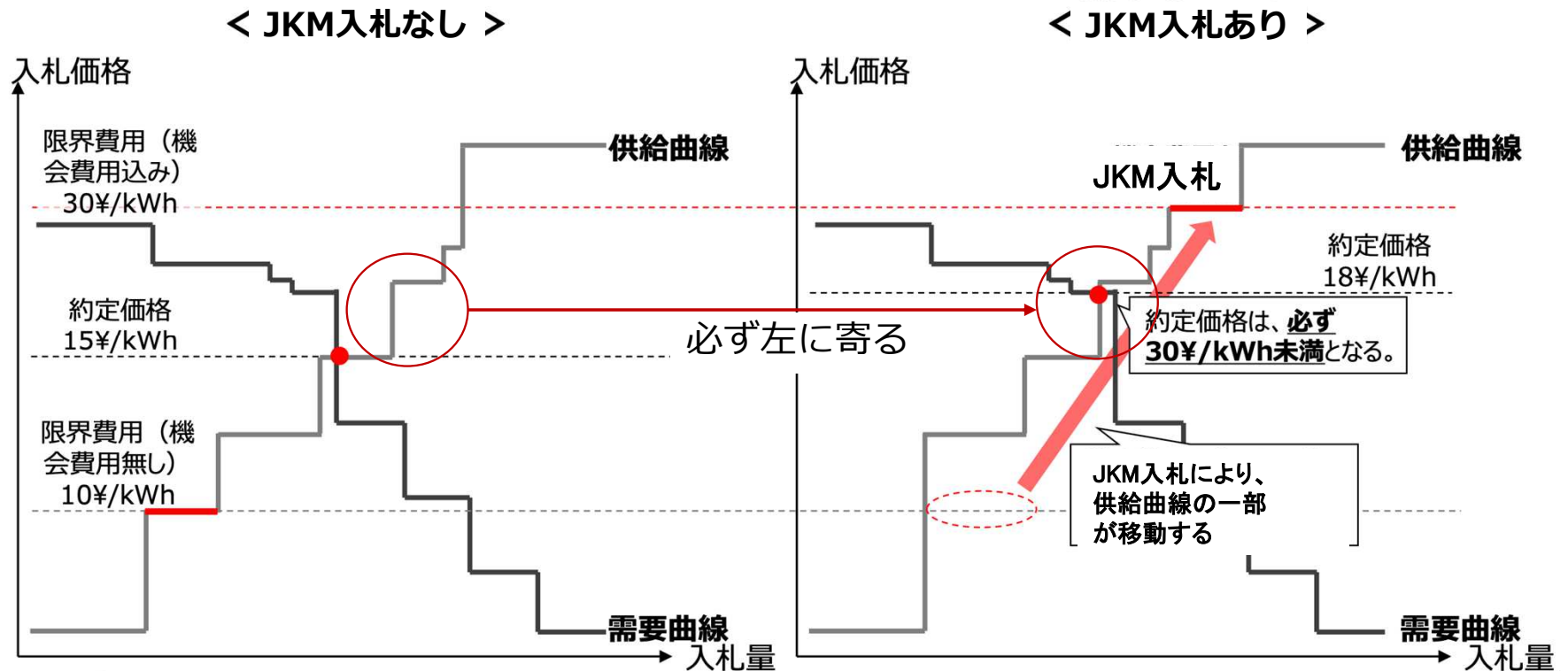


売入札量が  
35,000MW弱しかない。  
もう少し多ければ、売り切れの  
直線が右により、約定価格は安  
くなる。

図はJEPXが公開しているもの。

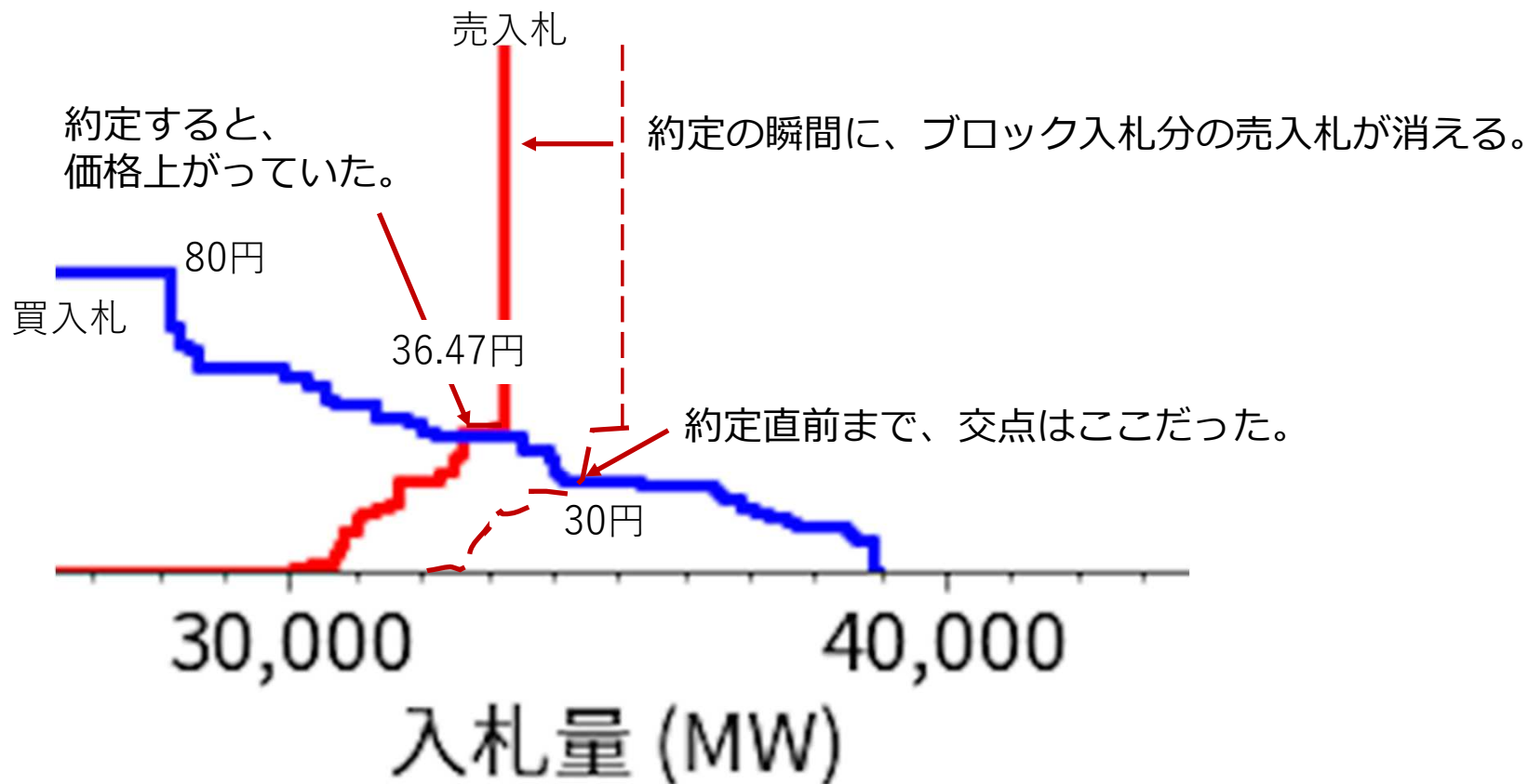
## 4、天然ガスの市場価格で売入札 (限界費用の見直し)

スポット市場への供出価格を「在庫単価」から「追加的な調達価格を考慮した単価」(JKM単価)に見直すことを認めることにより、各社の燃料追加調達を促すもの。(経産省の定義)



## 5、予想を攪乱するブロック入札

燃料費が高くなれば売らない。それでも市場価格が高くなれば売る。



2022年4月15日 19時30分から20時のJEPXシステムプライス約定カーブ

## 6、三つが絶妙に作用して最低価格が上昇

見かけ上の「売入札量」は増えたが、  
「売り切れ」「JKM入札」「ブロック入札」の三つが作用して、需給とは関係のない低値高騰が出現している。

なぜこんなことをするのか？

化石燃料の価格高騰の負担を抱える旧一電を救済する・・・ためでは？  
そのためには弱小新電力が駆逐されても構わない？

結果何が起こるか。

消費者の電気料金が上がる。

とりわけ「高圧需要家」の料金が上がっている。

「高圧難民」が生まれており、電気料金で倒産する企業も現れるだろう。